**窯出**

アッと思わず声がもれる、会心の作と出会う窯出しの瞬間。
釉薬と炎による窯変が、絶妙な景色を浮き立たせる。
上野の技と情熱が、品格ある器を生み出す。
静かに座る器は、見る人を侘寂の世界へと誘っていく…。

**焼成**

熱波を感じながら、祈るような気持ちで薪をくべる。
燃えさかる炎が、匠の技の結晶に命を吹き込んでいく。
酸化炎、還元炎、中性炎、釉薬にあわせて炎を駆使する。
窯の温度を調節しながら1200度以上の高温で焼き固める。

**釉掛**

丹念に仕上げたなめらかな釉薬が土の肌を静かにまとう。
作家は、釉薬が織りなす景色を頭に浮かべ調整する。
使われる釉薬の種類が他に類を見ないほど多彩…
それが、上野焼の魅力であり特徴でもある。

**乾燥**

手間ひまかけて作り上げた土が息をしている。
端正な造形や線は、この段階でさえ趣がある。
ろくろなどでの成形後、4日以上かけて完全に乾かす。
その後、800～850度の素焼で強度と吸水性が高められる。

# 挑む陶技で感性と福知の

誇るべき伝統文化がここにある。
四百年以上の歴史を刻んできた「上野焼」。
それは郷土の風土がとけ込んだやきもの、
国が指定する伝統的工芸品である。

今日もまた、土と炎と匠の手から、新しい器が生まれる。
この町には、今日まで脈々と受け継がれてきた
ほとばしるほどの情熱が息づいている。
妥協を許さないものづくりの精神こそ、上野の伝統の礎。

それが、綿々と培ってきた上野の誇りである。
次代を切り開いてきた先人たちは
時代ごとに作風を重ね、いくつもの壁をこえてきた。
その多彩さとたくましさが、上野焼には宿っている。

しかし、これからも新たな伝統を創り続けなければ、
やがてこの火も絶えてしまうだろう。
わたしたちは今こそ、上野焼の本質を知る…
町の至宝を守り継ぐために。

ジャパンブランドとして
**海渡るチャレンジ。**
伝統と未来をかけて

特集 上野 JAPAN